

部活動の地域移行について

1. 経緯

国では、少子化の中、将来にわたり子どもたちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保することを目指し、令和3年10月より「運動部活動の地域移行に関する検討会議」が開催されており、令和4年6月、検討会議の提言がまとめられた。

2. 提言内容 ※別添資料のとおり

(1) 現状と改革の方向性（第1章）

- ・ 休日の部活動から段階的に地域移行（令和7年度末を目途）
- ・ 平日の部活動は、休日の地域移行の進捗状況等を検証、さらなる改革を推進
- ・ 地域でのスポーツ機会の確保や、生徒の多様なニーズに合った活動機会を充実
- ・ 地域のスポーツ団体等と学校との連携・協働の推進

(2) 地域における新たなスポーツ環境の在り方とその構築方法等（第2章）

(3) 具体的な課題と求められる対応（第3章から第9章）

3. 東栄町における運動部活動の現状と課題、地域移行への課題

現状の課題	地域移行への現状や課題（地域移行の可能性）	
部活動の選択肢が少ない	現行の部活動以外のスポーツ団体も町内にある (サッカー・空手・弓道等)	○
生徒数減少に伴う部員の減少 (練習や大会参加の難しさ)	1校しかないため生徒数は変わらない 選択肢が増えれば、競技当たり人口はさらに減少	△
競技経験のない教師が指導せざるを得ない	①地域移行により想定される成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現部活動と同様の成果が得られるか不透明 ・ 生徒が求める成果 ・ 生徒が成果を実感する場の有無(大会等) ・ 保護者が求める成果 ・ 学校や教育委員会が目指す長期的視点に立った成果 ・ 想定される選択肢が不透明 ・ 学校や教委等の裁量が不透明 	?
	②地域側の資源の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的指導が可能な指導者確保の可能性が不明 ・ 受け皿となる団体の有無が不明 ・ 受け皿団体の持続可能性が不明 ・ 人件費等の財源が不明確 	?

4. 今後のスケジュール

令和4年度中に行われる県主催の担当者説明会（予定）により詳細を確認し、町における地域移行への課題を整理。体育協会に加入する団体への聞き取り等により地域移行の受け皿や方策を検討する。令和7年度末を目途に休日の地域移行を目指す。

【読み原稿に使う】

提言内容

(1) 中学校等の運動部活動の改革の方向性

- 中学校等の運動部活動を取り巻く環境を鑑みれば、今後、これまでと同じ形で平日及び休日の運動部活動を維持することは困難な状況。
- まずは、休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とすべき。
- 平日の運動部活動の地域移行についても視野に入れ、休日の運動部活動の地域移行とともにできるところから取り組むこと。
- 地域の実情に応じた休日に関する地域移行の取り組みの進捗状況等を検証し、さらなる改革を推進すべき。
- 意向の有高や方法については、地域の状況に応じた様々な形となることが考えられ、柔軟な体制づくりを進める必要がある。
- 併せて、受け皿となる地域におけるスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実、地域スポーツの振興についても着実に取り組むこと。